



2023年10月11日

各位

会社名 株式会社シー・ヴィ・エス・バイエリア
代表者名 代表取締役社長 泉澤 摩利雄
(コード番号 2687 東証スタンダード)
問合せ先 広報・IR担当 (TEL: 043 - 296 - 6621)

2024年2月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、当第2四半期までの各事業の進捗状況などを踏まえ、2023年7月12日に公表いたしました2024年2月期通期の業績予想について下記の通り修正いたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2024年2月期通期連結業績予想数値の修正 (2023年3月1日～2024年2月29日)

	営業総収入	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2023年7月12日公表)	百万円 7,181	百万円 314	百万円 281	百万円 202	円 銭 40.92
今回発表予想 (B)	7,380	428	432	327	66.24
増減額 (B-A)	199	114	151	125	
増減率 (%)	2.8	36.3	53.7	61.9	
(参考) 前期実績	6,926	81	47	△13	△2.74

(2) 2024年2月期通期個別業績予想数値の修正 (2023年3月1日～2024年2月29日)

	営業総収入	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2023年7月12日公表)	百万円 2,750	百万円 157	百万円 167	百万円 141	円 銭 28.56
今回発表予想 (B)	2,943	255	294	258	52.27
増減額 (B-A)	193	98	127	117	
増減率 (%)	7.0	62.4	76.0	83.0	
(参考) 前期実績	2,509	△102	△84	△82	△16.67

(3) 修正の理由

個別業績におきましては、昨年の秋以降、新型コロナウイルス感染症による各種規制が徐々に緩和されたことで、出張やレジャーによる人流はコロナ禍前の水準にまで回復し、首都圏においてコロナ禍後初となる行動制限のない春を迎えた当第1四半期 (2023年3月1日～2023年5月31日) においては、5月上

旬以降、新型コロナウイルス感染症が指定感染症5類に移行されるなどの変化を背景に、国内景気には緩やかな回復が見られると同時に、外食やレジャー、宿泊の各産業も、持ち直しが進みました。続く当第2四半期（2023年6月1日～2023年8月31日）においても、宿泊需要の拡大傾向は続き、インバウンド需要の高まりも見られたことで、ホテル事業においては、夏休みやお盆期間中のほか、週末を中心に連日高稼働が続くなど、ビジネスホテル、ユニット型ホテルの別を問わず、売上高、客室単価、宿泊客数ともに、大きく伸ばいたしました。

当第3四半期以降も、国内の宿泊需要については、一定の期間、高止まりの状態が続くと見られるほか、インバウンド需要のさらなる回復が見込まれる状況を追い風に、スポーツイベントや企業研修、修学旅行など、レジャー以外の団体需要の獲得強化や、需要予測に基づく販売価格の調整を行うことで、客室単価の適正値の維持に努め、上期業績と同水準の売上高、営業利益の確保を目指す立場から、通期業績予想値の修正を行うものです。

連結業績におきましては、マンションフロントサービス事業において、当第2四半期までに過少傾向となっていた人件費について、優秀人材の確保や賃金上昇物価高騰を背景とする待遇改善が進むことで販管費の上昇を見込むものの、影響は軽微であり、下期業績はおおむね期初計画通りの推移を見込むほか、クリーニング事業においても、上期業績において売上高は堅調に推移している状況を踏まえ、既存顧客に対するアプローチを強化し、新たな需要の掘り起こしに注力することに加え、昨年秋に実施の自社工場閉鎖や事業拠点の集約による業務効率化により収益改善も見られており、下期業績はおおむね期初計画通りの推移を見込んでおります。上期業績の推移ならびに個別業績における下期業績予想の影響から、通期業績予想値の修正を行うものです。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。
今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。